

匠の技術にふれたくて  
知っているようで知らない  
ものづくりの現場を訪ねました。

# 大人の社会見学

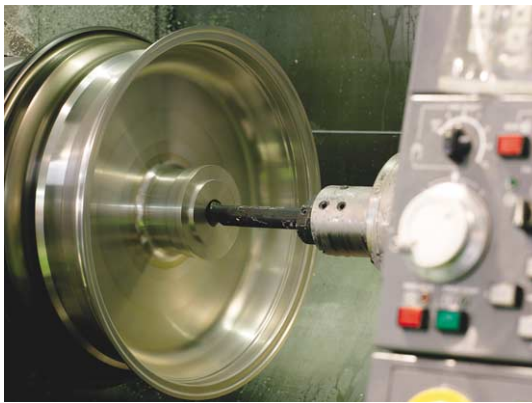
人なら聞き覚えのあるその社名。2輪レ

## 第一線を走るオートバイホイール MAGTAN (マグタン)

かつて世界の舞台で培った**技術と自信**  
その全てを注ぎ込んだ**タイヤホイール**は  
**豊岡から世界へ向け、再び走り出す**



加工・塗装を終えた、出荷前のマグタンホイール



最新鋭・五軸制御NC旋盤による切削加工



美藤定社長



マシーニングセンターによるスポーク部の加工

### DATA

■株式会社ビトーアールアンドディー  
\*豊岡市奥野149-1 午前8時~午後5時半  
TEL.0796-27-0429  
オートバイ部品の製造、販売を手がける。

兵庫県豊岡市にあるBITOR&D。モーターサイクルを趣味に持つ

「ワールドスーパースポーツバイク」など世界のトップステージで用いられているオートバイホイールの製造・販売を手がけている世界ブランドだ。

のどかな田園地帯に建つ工場。そこに所狭しと並ぶ重機を操る社員、凛とした表情と眼差からは、世界を舞台に働いているという矜持が感じられる。

「人数や規模は関係ない。情熱を持ち、『できる』と思えば誰だってできるんです」と語るのは美藤社長。

自身はかつて海外のプロバイクレーシングのメカニックとして世界中を転戦し、一流ライダー達からの信頼を得てきた。世界のトップを競う環境に身を置くなかで培った確かな技術と自信、そして持ち前のチャレン

ジ精神は、場所を故郷である豊岡市に移してから変わらない。

同社が開発したマグネシウム鍛造ホイール「マグタン」。従来のマグネシウム製ホイールは鋳型を作り、そこに金属を流し込む「鋳造」という工法で作られていた。だが製造工程で不良品が多く、生産量も少ないうえ、作業環境は危険と隣り合わせだった。

美藤社長は試行錯誤とアイデアを駆使し、圧力をかけ形状を作る「鍛造」でホイールを作ることによって初

めて成功。この工法だと高い強度が確保できるため、ホイールを薄く、軽く成型することが可能となり、より美しい形状デザインも実現できるようになった。この「マグタン」、販売開始とともに大きな反響を呼び、瞬く間に名実ともに世界一へと躍り出た。

社名にある「R&D」とは「リサーチ&ディベロップメント(調査・開発)」の略。美藤社長が歩んできた道はまさに「R&D」の繰り返しであり、「マグタン」はその結晶とも言える。

「マグタンはゴールではない。私は一生チャレンジし続ける。一度きりの人生、後悔はしたくない。」  
豊岡の地から世界へ向けて、再びセーショナルな作品が生み出される日は、そう遠くない。

www.JB-POWER.co.jp

### 素晴らしいバイクライフ、大いなる人生。

現代の技術革新(タイヤ性能も含めて)の恩恵は大いに享受しつつ、バイク本来がもつ「走り」、そして「操る」喜びを存分に味わうことができる。ビトーR&Dのチューンドバイクで、最良の人生をお楽しみ下さい。

**株式会社 ビトーアールアンドディー**  
〒668-0822 兵庫県豊岡市奥野149-1  
Phone: 0796-27-0429 Fax: 0796-27-0629  
Web Site: <http://www.JB-POWER.co.jp> E-mail: [bito@jb-power.co.jp](mailto:bito@jb-power.co.jp)  
英国コスワース・ベルギーTOBY・伊BMC・日本ケービン・日本FCC・日本KYB 日本代理店

# げんぶどう 玄武洞

(豊岡市赤石)



明治時代に撮影した玄武洞。亀甲に似た六角形の石柱が群立している。

現在の玄武洞は北但人震災や鳥取地震によって落石が起ったため、4つある洞のうちの1つが埋まっている状態。1931年(昭和6年)には国の天然記念物、2008年(平成20年)には京都府から鳥取県までの山陰海岸を中心としたエリアが日本ジオパークとしての認定を受けた。玄武岩は地元では「難石(なだいし)」と呼ばれ、石垣や瀧物石、庭石などの石材に使用されていた。今でも地元赤石地区や城崎温泉などで、住宅や護岸に使われた玄武岩の石垣を見ることが出来る。玄武洞公園前には、石の博物館「玄武洞ミュージアム」があり、世界の宝石や鉱物、化石などが分かりやすく紹介されている。

## 「生活の糧」から観光・地質資源へ 玄武洞が刻む、地球の神秘と地域の歴史

自然がつくり出す芸術、規則正しい岩石の割れ目「柱状節理」がみごとな豊岡市の玄武洞。160万年前の噴火によって流れ出たマグマが冷え固まった際に形成されたものだ。

昔、玄武洞公園周辺は採石場が点在している地区だった。玄武洞はその中でも大規模な採石場の1つで、村の共有財産として、何年かごとに石を採掘する権利を売っていたそうだ。

「江戸時代の『但州湯島道中』一人案内」という観光案内版には、「珍しい石をとる採石場があるので見に行つてみては」という内容で紹介されています。稲作の不安定な地区だったので採石が生活の糧となっていたんです」とは玄武洞ミュージアム館長の田中栄一さん。

玄武洞を見学する人がいることに「こんなものを見にくる物好きがいるのか」と、驚く住民もいたという。地元では当たり前存在する、暮らしの中の一部だった。

また、玄武洞の資料の中に昔の漢詩がたくさん残っている。1807年(文化4年)に「玄武洞」と命名した、幕府の儒官・柴野栗山を慕う学者などが、玄武



洞の風景を詠んだもので、そのおかげで全国に但馬の景勝地として広まった。

そして次第に玄武洞を保存しようとする動きが高まってくる。明治41年に記録されている「玄武洞修繕設計書」

は玄武洞を最終的にどのような形に切り出して保護するかを記したもので、その結果現在の形の原型が作られた。

「地球の磁場は昔から変動しており、時には南北反転していた時代もある。玄武洞は、地球磁場が反転していたこ

とを発見した「松山逆磁極期」の舞台となった場所。そこから「地球ってすばらしい」を感じてほしい。表面だけでなく、地球科学や地球の将来を考えるきっかけになってほしいですね」と田中さん。

最近では山陰海岸ジオパークの貴重なスポットの一部として注目を集め、案内ガイドや豊岡市のキャラクター「玄さん」も登場。一段と親しみやすくなり、新たに訪れる人も増えている。

生活の糧から観光・地質資源へ。時代とともに目的は変わっても、人々の心には「大切に守りたいもの」として変わることなく息づいている。

協力:玄武洞ミュージアム



「たんざんICバンクカード」好評取扱中 詳しくは窓口まで

「山陰海岸ジオパーク鷹の巣島(香美町)」